

## 深まる教会、広がる教会

(イザヤ三七・三〇～三二)

「わたしの教会、あなたの教会（一三年）」、「伝える教会、仕える教会（一四年）」、「祈る教会、働く教会（一五年）」に続く今年の標語は「深まる教会、広がる教会」である。「また教会ですか」などと言つてはいけません。他ならぬ「教会」の標語なのだから。二〇世紀は「個人」というものを大切にした時代であり、私たちのような所謂「福音派」に属する教会では特に「イエス・キリストをあなたの個人的な救い主として（つまり家族の宗教としてではなく）信じますか」という調子で個人の信仰を非常に強調した。確かに信仰はその背後にある神の働きを見なければ）全く個人個人の主体的な決断に基づくものである。しかし私たちの信仰の創始者であり完成者であるイエスご自身が教会の設立者であることを考える時、また人はひとりでは生きていけないという厳然たる事実を知る時、私たちは様々な所からこのベテルキリスト教会に集められたことに意味を見いだし、教会共同体として使命を共有するべきなのである。以下この標語の根拠となることばから深まること、広がることについて学んでいきたい。

## 一、深まる教会

先ほど読んだ箇所は、ユダ王国が全オ

リエント世界を支配した最初の帝国でも

あるアッシリアに完全包囲された状況で

語られた言葉である。アッシリアの遠征軍

の長ラブ・シャケはエルサレムを包囲し、

ユダの民に聞こえるように、ユダの言葉で

民に呼びかけ、彼らの王ヒゼキヤは脆弱で

あり、南のエジプトは力が無く、そのよう

な籠城戦は糞尿を食らうが如き結末とな

る。だからと投降を呼びかけた（イザ

ヤ三六章）。このように愚弄されたヒゼキ

ヤは神に心を注ぎだし、祈りに祈った。そ

こにイザヤがやってきてアッシリアの敗戦

と、エルサレムの未来を告げたのだが、そ

の中に「下に根を張り、上に実を結ぶ」

があるのだ。要は「良い場所だからそこに

居続ける」というのではないのだ。エルサ

レムは包囲されており、耕作もかなわず

落ち穂から芽吹いたものを食べねばなら

ない危機的な状況だ。しかし主はなおそこ

に根ざすことを要求されたのである。苦し

みの中に居続けようとすると人は少ない。し

かしもし主があなたをそこに置いたなら

ばそこに留まり、深められていくことが大

切なのだ。イザヤの預言に注目しよう。

彼らはあと二年は落ち穂からのものを食

べねばならないのだ。だがそこに留まり、

主の訓練を受け続けるなら、上に実を結

ぶことが約束されているのだ。

## 二、「広がる」教会

時に日本では末広がりということで「八」

の字は縁起がいいとされるが、中国でも

「八」は吉を呼ぶ数である。「八」と「発」

（財を發展させるの意）の発音が似てい

るのだ。だから中国圏では旧正月の期間

中、やたら八の字を目にする事になる。

確かにお金を儲けたい、幸せになりたいな

どという願いは「広がり」とごく近い関係

にある。教会もそうだ。イエスの教会は本

来成長、拡大する組織としてデザインさ

れたものである。それはイエスが「全世界

に出て行って（マルコ一六・一五）」と言

い「あらゆる国の人々を弟子としなさい（マ

タイ二八・一九）」と語られたことから

明らかである。しかし忘れてはならないこ

とは真の拡大と成長を得るためには前述

した深まりが前提になるということだ。ミ

リオンセラを記録したシスター渡辺和

子の『置かれた場所で咲きなさい』の中に

こんな言葉がある。「どうしても咲けない

時もあります。雨風が強い時、日照り続

きで咲けない日など。そんな時には無理に

咲かなくてもいい。その代わりに、値を下

へへと降ろして、根を張るのです。次に

咲く花がより大きく、美しいものとなるた

めに。」言い得て妙である。確かに花や枝

ぶり、更には実を喜ぶ人はいても土の中に  
隠された根に目を注ぐ人はいない。しかし  
木にとつて根が肝心であるように、發展す  
る教会、成長する個人であるためには人  
目にかくれた神との交わりが不可欠なの  
である。

\* \* \*

かくしてイザヤは絶体絶命の困難にあ  
るヒゼキヤとユダの民に、籠城を続けるこ  
とを語った。するとどうだろう。主の軍  
勢がアッシリア軍を打ち破り、彼らは救  
われた。神風ばりの奇跡が起こったのであ  
る。これについては歴史家ヘロドトスがアッ  
シリア軍が疫病によつて全滅したという  
記録を残している。このことかとも思  
われるのだが、ここに大切なヒントがある。  
確かに私たちは深まりを求め、神に祈り、  
広がり求めてあらゆる良き業に励むの  
だが、そのことを成すのはどこまで行つて  
も「万軍の主の熱心」だということである。  
またこのことばはあの有名なメシア預言  
（イザヤ九・七）にも用いられている。社  
会的にも、信仰的にも「困難」な今、私  
たちに求められているのは、置かれた場所  
に留まり、根ざしつつ、成長させて下さる  
主の熱心を頂いて広がっていくことである。  
自分の実ではなく、御霊の結ぶ実をもた  
らす、真の發展の年としようではないか。